

DAWN 通信

第 8 号

2010. 12

★特集

これまでの、
女性に対する暴力に関する取り組み ②

■女性に対する暴力…今後の課題 ①

■講座・イベントのご案内 (12月~2月) ④

■賛助会のご案内/賛助会員ご紹介 ⑥

財団法人大阪府男女共同参画推進財団は「男女が対等な立場で、あらゆる分野に参加・参画できる社会づくり」の視点から、多様な価値を受容し、一人ひとりが持てる力を最大限に発揮できる真に豊かな社会の実現に貢献します。

女性に対する暴力…今後の課題

「ドメスティック・バイオレンス (DV)」という言葉が一般に知られ法律や制度が整備されるようになって10年、DVは減ったのでしょうか?内閣府が平成21年3月に発表した調査では、これまでに身体に対する暴行を受けたことがある女性は24.9%、嫌がっているのに性的な行為を強要されたことがあったという女性が15.8%にのぼります。

この10年余りの間に、例えば被害者支援の仕組みは整いつつあります。全国に数えるほどしかなかった民間シェルターも現在では113カ所を超え、大変な状況の中での被害者支援が続いています。「配偶者暴力相談支援センター」も各地に設置されました。でも、DV被害そのものは減っていないようです。

取り組みが進んでも被害が減らないのは支援の制度が進み、被害者が「助けを求めてもいいんだ」と思えるようになりだしたのも一因でしょうが、男女間の暴力(=支配とコントロール)のかたちが変わってきたことも大きな原因です。

相談の現場にいて最近「増えている!」と感じるのがパートナー間の精神的・心理的虐待(ハラスメント)です。目の前にいるのに無視をされたり、何をやっても文句や嫌味を言われたり、家具や物にあたりたり、機嫌を損ねると何時間も正座で説教されたり、家の中でもメールで指示が来たり、全人格を否定されるような言動を毎日聞かされたり…といった「モラル・ハラスメント」は、外から見えにくく、「女は夫(男)の言うようにするのが当然」というジェンダー意識もあって、被害者は「自分がこんなにつらいのは、自分に問題があるのか…」と悩みます。毎日続く長年にわたるこのような関係のため、「うつ」的になったり、からだに不調をきたしたりという場合も少なくありません。

「デートDV」のように、若い世代の間にも男女関係が親密になるにしたがってジェンダー意識も強くなり、支配やコントロールの関係が定着する傾向がみられます。最近の若い男性が自分の妻のことを「嫁」と呼ぶのを聞くとゾッとしますが(テレビ文化のせいでしょうか?)、本当のジェンダー平等を社会に根づかせる仕事はこれからが本番なのだと思います。

ドーンセンター カウンセラー
川喜田 好恵



これまでの、女性に対する暴力に関する取り組み

1995年の第4回世界女性会議(北京会議)において、「女性への暴力」が大きく取り上げられてから15年。その間、ストーカー・DVをめぐる法律の制定・改正が行われ、近年では性暴力をめぐる取り組みも活発になっています。

1994年の設立以来、こうした社会の動きとともに16年余りにわたってドーンセンターを運営してきた当財団の、女性に対する暴力に関する取り組みについてご紹介します。

被害者支援、被害からの回復支援

女性のための相談事業を実施するなかで、パートナーからの深刻な暴力の実態が明らかになってきました。そのため、98年には特別電話相談「対等でないパートナー関係に悩む女性のための電話相談」や「サポート・グループ」を実施しました。また、配偶者間だけでなく、恋人からの暴力の実態を明らかにするため、02年には「恋人からの暴力に悩む女性のための相談」にも取り組みました。01年のDV防止法施行後は、暴力から逃れた後の心理的回復を図るためのサポート・グループ「わたしの『再出発』：夫の暴力を逃れて」の開催や、暴力被害からの心理的回復のための相談に力を入れています。今年度もNPOとの共催で「デートDV電話相談」(心のサポート・ステーション)を実施しました。

第4回世界女性会議で「北京宣言及び行動綱領」採択 (1995年)

「ストーカー規制法」成立 (2000年)

「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律(DV防止法)」施行 (2001年)

	1998	2000	2002	2004
被害からの回復支援		<ul style="list-style-type: none"> ● 対等でないパートナー関係に悩む女性のための電話相談 (1998) ● 対等でないパートナー関係に悩む女性のためのサポートグループ (1998) 		<ul style="list-style-type: none"> ● 恋人からの暴力に悩む女性のための相談 (2002)
啓発・研修		<ul style="list-style-type: none"> ● ドーンフェスティバル (基調講演「ジェンダーと暴力」) (1998) ● 管理者のためのセクシュアル・ハラスメント講座 (1999・2000) 	<ul style="list-style-type: none"> ● スクール・セクハラ防止研修講座 (2002・2003) 	
共催事業		<ul style="list-style-type: none"> ● 男の非暴力ワークショップ [メンズセンター] (1999) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「男の非暴力コミュニケーションワークショップ」 [メンズセンター] (1999.8～2000.3) ● 男の非暴力グループワーク [メンズサポートルーム] (2000.5～2002.7) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 緊急シンポジウム「DV防止に役立つ法律を作ろう！」 (2001) [日本DV防止・情報センター]
支援者養成				<ul style="list-style-type: none"> ● 「女性に対する暴力対策人材養成支援講座」 入門編・専門編 (2001～2005) ● フェミニストカウンセリング専門講座 (1996～2010)
情報収集・発信		<ul style="list-style-type: none"> ● 海外ビデオ『不適切な行動：高校生間のセクシュアル・ハラスメント』収集加工 (1998) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 海外ビデオ『恋人からの暴力：死にいたる愛』収集加工 (2000) 	

情報収集・発信

海外女性監督作品の収集
・提供事業として、98年には『不適切な行動：高校生間のセクシュアル・ハラスメント』、00年『恋人からの暴力：死にいたる愛』（共に製作国：カナダ）の収集加工を行いました。研修等で広く活用いただいております。今年度はDVD化しました。その他、ドーンセンターにおいて定期的なビデオ上映、パネル展、資料リストの作成・配布などを開催しています。

啓発・研修

被害者への支援と並行して、女性に対する暴力を21世紀に取り組むべき重点課題に掲げて、98年から3年間にわたり「女性への暴力」と題した啓発講座を、「実態編」「支援編」「防止編」「回復支援編」「加害者研究編」そして「21世紀への課題編」の6編、計27回で多面的・多角的に実施しました。98年のドーンフェスティバルでも、基調講演を「ジェンダーと暴力」と題し、情報・相談・啓発の総合力を活かし、暴力に悩む女性への相談、情報提供、DV防止パネル展なども開催。さらにNPOとの共催事業として「男の非暴力ワークショップ」（メンズセンター）やDV防止法の制定にむけた緊急シンポジウム「DVに役立つ法律を作ろう！」（日本DV防止・情報センター）などを開催しました。また、性暴力に関する取り組みとして、99・00年には「管理者のためのセクシュアル・ハラスメント講座」を、02・03年には学校関係者向けに「スクール・セクハラ防止研修講座」を実施しました。今年度も、「女性に対する暴力をなくす運動」と連動しながら、啓発に取り組みました。

支援者養成

DV防止法が施行された01年からの5年間は「女性に対する暴力対策人材養成支援講座」（入門編・専門編）を毎年開催し、行政窓口や地域において被害者支援に関わる方を対象に、DVが起こる背景、法律の理解と運用、被害者心理を理解した対応などを学ぶプログラムを実施しました。09年には、「配偶者からの暴力被害者支援基礎セミナー」を、2010年には「交際相手からの暴力の予防啓発指導者のための研修」を開催し、他府県や学校関係者などへも対象を拡大しています。また、1996年にスタートし、今年で15年目を迎えた「フェミニストカウンセリング専門講座」では、当初から性暴力・性虐待やDVをテーマに取り上げ、援助者を対象に暴力被害からの回復支援に必要な視点や技術を提供しています。

「改正男女雇用機会均等法」
成立（2007年）

2006

2008

2010

わたしの『再出発』～夫の暴力を逃れて～（2003～2008）

女性に対する暴力をなくす運動（2010）

● 日韓女性人権シンポジウム「女性への暴力（DV・性買売）in 大阪」【お茶の水女子大学ジェンダー研究センター】（2004.6）

● 性被害ティーンズのケア、地域・学校でのサポートスキル【レイプライシスサバイバーズネット関西】（2005.11～2006.1）

● DV被害者支援・サポーター養成講座【いくの学園】（2006）

● 男の非暴力グループワーク【メンズサポートルーム】（2005.4～9）

● デートDV電話相談【心のサポート・ステーション】（2010.11）

● 女性のためのセルフディフェンス講座【インパクト関西】（2007）

● 「性被害：心の傷と癒しのヒント」

● 大藪順子写真展&講演会「性暴力サバイバーの素顔」【大阪YWCA】（2007.10）

● 配偶者からの暴力被害者支援基礎セミナー（2009・2010）

● 交際相手からの暴力の予防啓発指導者のための研修（2010）

● 無料ビデオ上映会
「私を守る：DV被害と女性たちの証言」他

● ランチタイム上映会
「愛し、敬い、傷つけられて」他

● 無料ビデオ上映会（2009・2010）
「ドメスティック・バイオレンスにどう取り組むか」

講座・イベントのご案内

仕事・キャリア

はなみずきキャリア塾Ⅱ 〈B〉



働く女性のワークライフの充実、生涯にわたりキャリアを創造する力量形成を目的とした実践セミナーです。

12月〈B.活かす〉

12/25 人を活かす/色で元気になる! *交流会

1~3月〈C.自分を大切に〉

1/22 緩急をつける/漢字を知る

2/26 完璧をめざさない/韓国の伝統文化~ポシャギ

3/26 時間をマネジメントする

/ワーキング・ウーマンのメンタルヘルス、ここが危ない!

●場 所: ドーンセンター特別会議室 (5F)

●受講料: B 10,000円、C 8,000円 (各 3,000円)

仕事・キャリア

抽選

はなみずきキャリア塾 <特別編>

リラクゼーション・ボディワーク編①



冷え、ストレッチ不足でカラダが硬くなっていませんか? こわばったカラダを「リラクゼーション・ボディワーク」で、ゆったりときほぐしましょう。

クラシックバレエのエッセンスを取り入れ、美しい姿勢を身につけます。ヒーリングミュージックの流れるスタジオで、お仕事帰りのカラダを温めながら、日々の動きの質をUP。心もカラダもやわらかくなる、そんな時間を共有できるようなクラスをご用意しています。

●日 時: 2010年12月1日(水)・8日(水)・15日(水)
19:00~20:30

●場 所: ドーンセンター 多目的ルーム (B1F)

●講 師: 金井真沙美 (アンエイジ美エクササイズ、フィットネス・インストラクター)

●対 象: 女性 各回25名 (応募多数の場合は抽選)

●受講料: 各回1,800円 全3回4,800円

※当財団個人賛助会員は10%割引

仕事・キャリア

無料 選考

母子家庭のお母さん等のための職業訓練

パソコン実務&しごと準備コース

“仕事に就きたい!”と考えている母子家庭のお母さん等を対象に、パソコンの実習としごと準備講座を開催します。

●日 時: 2010年12月1日(水)~12月25日(土)
9:45~16:45

●場 所: ドーンセンター

●対 象: 訓練後、すぐに就職したいと考える母子家庭のお母さん等

●定 員: 20名(最小催行人数10名)

●受講料: 無料(ただし、テキスト代2,500円)

●申込方法: 住所を管轄するハローワークでご相談の上、お申込み下さい。

●一時保育: あり 1歳~就学前(保育料無料、定員12名)

●お問合わせ: 独立行政法人 雇用・能力開発機構大阪センター
企画課(委託訓練担当) ☎06-6383-1137

文化・アート

第40回 ドーン・シネマクラブ

「心理学者 原口鶴子の青春」



●上映作品

「心理学者 原口鶴子の青春

~100年前のコロムビア大留學生が伝えたかったこと~

(2007年/日本/95分/監督:泉悦子)

約100年前にコロムビア大学に留学し、心理学を学んだ女性・原口鶴子の生涯を追ったドキュメンタリー。米国留学後、心理学の分野で活躍するが、病に倒れ、志半ばで夭逝した女性研究者の一生を、留学時代を中心に紹介する。

[第32回山路ふみ子映画賞福祉賞受賞(2008年)]

[第20回東京国際女性映画祭上映作品]

●日 時: 2011年2月4日(金) 14:00・19:00
5日(土) 14:00

●場 所: ドーンセンター視聴覚スタジオ (5F)

●チケット: 前売り1,000円(当日1,300円)

※電話予約可(上映日前日まで)

※当財団個人賛助会員は前売り価格

※HPからご予約の方はご希望の日時、枚数を明記して下さい。

●広報協力: 大阪映画センター

文化・アート

第16回 女性芸術劇場



●日 時: 2011年2月17日(木)~23日(木)
(A・B各5回公演)

●場 所: ドーンセンターパフォーマンススペース(1F)

●上演作品

A: その鉄塔に男たちはいるという

作: 土田英生(MONO)

演出: 土橋淳志(A級 MissingLink) 出演: サッカリン

棚瀬美幸(南船北馬)、遠坂百合子(リリーエアライン)、

樋口ミユ(劇団 Ugly duckling)、芳崎洋子

(糾~あざない~)、竜崎だいいち(ミジンコターボ)

B: “その鉄塔に男たちはいるという” にインスパイアされて
サッカリンが書き下ろしたオムニバス(5編)

作: サッカリン

演出: 安武剛(トイガーデン)

出演: 西田政彦(遊気舎)、坂口修一、Fジャパン(劇団衛星)、
森田真和(尼崎ロマンポルノ)、大塚宣幸(大阪バンガ帝国)

●チケット: 前売り2,000円(当日2,500円)

●助 成: 財団法人 地域創造

このページに掲載している

講座・イベントに関するお問い合わせは

☎ 06-6910-8615

(財)大阪府男女共同参画推進財団
企画推進グループまで

不妊専門相談センター シンポジウム

無料 抽選

“不妊にまつわる悩み”と医療・文化・社会

～不妊にまつわる相談の現場から～

不妊の悩みはどのようなものなのか、解決の糸口はどこにあるのか、どのようなサポートが求められているのか、一緒に考えてみませんか。

【第1部】(基調講演)

「不妊はなぜ苦しいの？」

～生殖をめぐる医療・文化・社会～

■講師：柘植あづみ(明治学院大学社会学部教授)

【第2部】(報告)

「不妊の悩みをサポートするとは」

～不妊にまつわる相談の現場から～

●日時：2010年12月19日(日)

13:30～16:30(開場13:00～)

●場所：ドーンセンター 特別会議室(5F)

●定員：90名(応募多数の場合は抽選)

●参加費：無料

●申込締切：2010年12月9日(木)必着

●お問い合わせ：不妊専門相談センター事務局 ☎06-6910-8588

援助者支援

選考

2010

フェミニストカウンセリング専門講座

【研究コース】

女性の自立とエンパワメントのための心理的援助を行うために必要な知識と技術を提供する専門講座です。

本講座の理論コースを修了した方を対象に、現場での実際のケースに添いながら、フェミニストカウンセリングでのとらえ方、アプローチや対応の仕方などについて、スーパーバイザーとともに検討します。

●日時：2011年1月22日(土)・2月5日(土)・19日(土)

10:30～13:00 14:00～16:30

●場所：ドーンセンター 大会議室1(4F)

●スーパーバイザー：

井上摩耶子(ウィメンズカウンセリング京都代表)

川喜田好恵(日本フェミニストカウンセラー協会代表理事)

●定員：1グループ15名×2グループ 計30人

●受講料：20,000円(当財団個人賛助会員18,000円)

●申込締切：2010年12月7日(火)必着

●お問い合わせ：(財)大阪府男女共同参画推進財団

企画推進グループ ☎06-6910-8615

不妊専門相談センター

無料

サポート・グループへのお誘い

「子どものいない人生のこと、話し合ってみませんか」

同じ立場の人どうし、自分の気持ちを語り合い、経験や痛みをわかちあい…ともに支え合うためのグループです。

●日時：2011年1月22日(土)・2月26日(土)・3月26日(土)

10:00～12:00

●場所：ドーンセンター和室(4F)

●定員：各回15名

●参加費：無料

●お問い合わせ先：不妊専門相談センター事務局 ☎06-6910-8588

2010 夏期インターンシップ・プログラムを実施しました

8月24日～9月10日にかけて、今年も夏期インターンシップ・プログラムを実施しました。

今年は、大学3年～修士までの8名が参加し、イベント運営等の業務を体験しました。



【日常業務体験】情報ライブラリー休室日作業(8/31)

【インターンシップ生の感想】(抜粋)

・人の「声」と「つながり」の大切さ、貴重さを感じられました。また、多くの人が絶えず訪れるドーンセンター、財団の求心力、財団職員の方々が築いてこられた絆というものがいかに大事であるかを思い知りました。

・何より支援というのは、とてもやりがいのある仕事だと改めて思えたことが、自分のなかでは一番だったと思います。自分が将来、そのような立場で仕事をしたいという確信が持てました。

賛助会員募集中！

当財団は1994年創立以来、ドーンセンターを拠点に、男女共同参画社会の実現をめざして大阪府からの受託をはじめ、財団自主事業を展開しています。例えば、働く女性のためのセミナー、男性のための講座、行政や学校教員を対象とした研修、職場における女性活躍推進等、企業で研修を企画される際の情報相談や資料の貸し出し、女性のメンタルヘルス支援事業などです。(詳しくはホームページ <http://www.ogef.jp/> をご参照ください。) 私たちとともに豊かな男女共同参画社会を築いていきませんか。

【年会費】(4月から翌年3月までの年度制となります)

- ・個人 一口 3千円
- ・団体 企業等 一口 1万円
- 非営利団体 一口 5千円

【振込先】

郵便振替口座 00900-9-155214

口座名 財団法人大阪府男女共同参画推進財団

☆通信欄に『賛助会員 年会費(口数)』と、お名前、ご住所、電話番号、メールアドレス、お名前公表の可否をご記入ください。

【賛助会費の使い道】

財団の自主事業(相談事業・人材育成・文化表現等)に充当させていただきます。

- ・定期刊行物の発行
- ・相談関係事業
- ・人材育成事業
- ・女性芸術劇場等の実施
- ・賛助会運営費用 etc.

【会員の特典】

- ・財団が発行する定期刊行物の無料配布
 - ・財団指定の主催セミナー講習会等の参加費割引
 - ・財団主催の文化芸術事業(映画等)を賛助会員価格にてご案内
 - ・賛助会員交流懇談会等への無料招待
- (賛助会員の方は、財団ホームページにお名前を掲載いたします。ただし、ご希望により匿名も可能です。)

【賛助会員ご紹介】 ご入会・ご継続ありがとうございます。

【個人】

朝野 愛子	尼川 洋子	荒木 美子	石元 清英
伊田 久美子	伊藤 誠	大畑 真由美	大林 弘子
岡田 昌子	梶川 富美子	萱村 勝利	川上 清
川崎 佳代子	北山 博一	木山 美佳	黒瀬 友佳子
黒田 まさ子	伍賀 借子	小谷 晴美	小松 満貴子
小森 利絵	志水 紀代子	清水 由喜	正路 怜子
杉山 智博	鈴木 直子	鈴木 誠子	瀬尾 純子
外川 恵	高橋 幸雄	田代 眞朱子	田中 一好
田中 良正	谷岡 文香	富田 静代	中崎 郁子
中村 彰	夏原 晃子	名取 千里	西辻 達也
橋本 里子	橋本 博雅	服部 道代	藤田 良和
二子石 知恵	淵田 智	本多 利子	楨本 千里
升間 晶子	萬田 久美子	溝上 久美子	溝手 伸子
三好 敬子	森 俊江	森谷 恭子	森村 暁子
山口 幸子	山登 敏男	山中 紀代子	山本 隆夫
吉岡 重彰	吉野 喜代美	若松 綾子	他67名

【企業】

株式会社 ゼロワン	株式会社 学校事務機センター
株式会社 タツミ	株式会社 三菱電機ビルテクノサービス
司法書士YSパートナーズ	
株式会社 グランビスタ ホテル&リゾート	ホテル大阪ベイタワー 他2社

【非営利団体】

特定非営利活動法人 ハーティ
 特定非営利活動法人 大阪市難聴者・中途失聴者協会
 特定非営利活動法人 リトミック研究センター/大阪第一支部
 社団法人 日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会西日本支部
 B P W大阪クラブ
 I 女性会議大阪
 働く女性の人権センター いこる
 国際女性年大阪連絡会
 オパールネットワーク大阪
 女性グループ翼
 劇団シルバームーン
 メンズサポートルーム
 おんなの目で大阪の街を創る会
 特定非営利活動法人 心のサポート・ステーション
 大阪心のサポートセンター
 特定非営利活動法人 関西こども文化協会
 浪花勘亭流同好会
 特定非営利活動法人 生きがい大阪
 特定非営利活動法人 大阪府中途失聴・難聴者協会
 女性のエンパワメントをサポートする会 他8団体

以上、順不同、敬称略(2010年10月31日現在)

財団に関する最新情報は、ホームページでご案内しています。→ <http://www.ogef.jp>

ogef

検索

編集・発行 財団法人 大阪府男女共同参画推進財団 ニュースレター編集部
 〒540-0008 大阪市中央区大手前1-3-49 ドーンセンター3F
 TEL: 06-6910-8615 FAX: 06-6910-8624
 E-mail: info@ogef.jp <http://www.ogef.jp/>

発行日:平成22(2010)年12月1日